

月刊 本草閣 かわら版

7月30日

発行所 和漢・漢方 本草閣
「本草閣かわら版」
編集部
編集責任者 松岡 川出
[文責 林 譽史朗]



身体 各所に溜まる水

膝の水・腹水・胸水・心臓に溜まる水

口から摂った水分（お茶・水・ジュース・コーヒー・紅茶・味噌汁・果物・ビール・等々）は、身体に必要な水分を吸収し、その後小便（小便）・汗・通じ（大便）・等にて排出されますが、充分に出ないと顔・手・足・等の浮腫みになるか、全身が水肥りになります。これ以外に、身体各所に色々な形で「水」がたまりまます。

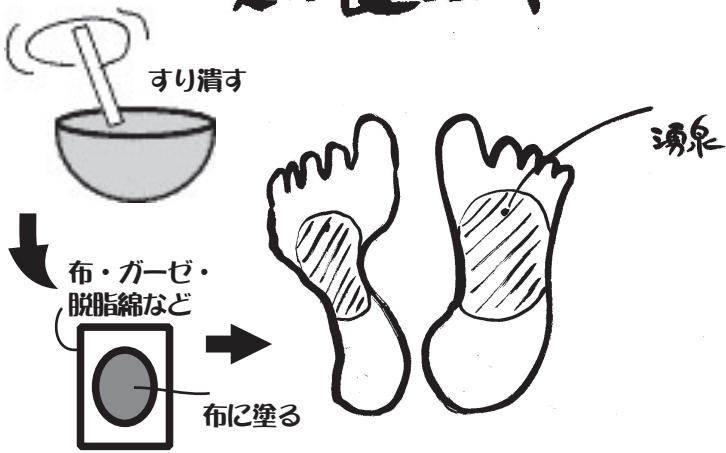
例えば、膝を痛めてに水が溜まったり、お腹に水が溜まったり（腹水）、肺や心臓に水が溜まったり致します。

これらは、身体全身・内臓全体の機能（動きそのもの）が弱り、水を排出することが出来なくなる事が原因です。

治療としては、全身の機能を上げる・元気にする漢方薬が必要です。その上に腎臓の働きを活発にする漢方薬と併用致します。

- ・膝の水：越婢加朮湯+
- ・彼岸花の球根・ヒマの実（足の裏に貼る）
- ・腹水：牛黄十補気健中湯
- ・または補中治湿湯（煎じ薬）+
- ・彼岸花の球根・ヒマの実（足の裏に貼る）

ヒガンバナ・ヒマの実 足の裏湿布



古来より伝承されている「足裏療法」

・心の水：牛黄十症状に応じた漢方薬（煎じ薬）
・肺の水：牛黄十症状に応じた漢方薬（煎じ薬）
等が考えられます。
新薬では効果のない時にも、素晴らしい効果を上げることが度々あります、是非とも困りの方お試し下さい。
本草閣の専門の薬剤師に遠慮なくご相談下さい。

民間薬よもやま話

第8回 トウゴマ トウダイグサ科：ヒマシ

漢名―蓖麻（ひま）



トウゴマ（ヒマの実）は、北アフリカ原産の植物です。古代エジプトの最古の医薬文献である「エーベルス・パピルス」にヒマシ油の記載があり、また、エジプト王朝の古い墓からトウゴマの果実が出土されるなど、4千年も前から医薬として用いられていたようです。

トウゴマの種子であるヒマシからはヒマシ油が作られ、下剤などとして用いられます。

また、ヒマの実にはヒガンバナの球根と共に、昔から、膝・腹・胸・心などの水をとりに、水の滞りや、腫れ・痛みなどを治す為に用いられて来ました。

今回はその方法を紹介します。

◎ 用意するもの ◎

- ・ヒガンバナの球根 大3コ
- ・ヒマの実（トウゴマ） 20〜30コ
- ① ヒガンバナの球根の薄皮を取る。
- ② ヒマの硬い皮を取る。
- ③ ①と②をすり鉢ですりつぶしてペースト状にする。
- ④ ③を布に伸ばし、それを両足裏の土踏まずの辺りに貼り付ける。
- ⑤ ヒガンバナの球根とヒマの実には少し毒があるため、使ったすり鉢や手をよく洗いまししょう。

足の裏にあるツボを刺激して、膝に溜まった水を取り、それに伴う痛みや炎症を治してくれます。また、腹水や胸水・心の水などを取るのにも効果があります。

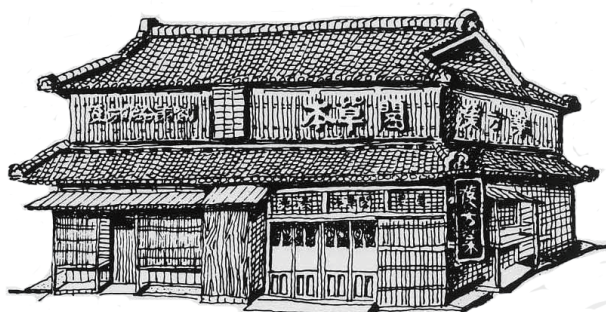
<お盆休みのお知らせ>

鶴舞本店 8月15・16・17日

緑店 8月12日～16日

お薬の発送は各休みの初日前日の午前まで

和薬・漢方の本草閣 本店
〒460-0012 名古屋市中区千代田5-21-17
(JR鶴舞駅西)
TEL (052)241-3388 FAX (052)241-3443
JR中央線・地下鉄 鶴舞駅下車
E-Mail kanpouyaku@honsoukaku.co.jp



和薬・漢方の本草閣 緑店
〒458-0016 名古屋市区上旭1-622
(滝の水公園西)
TEL (052)899-0221 FAX (052)899-0236
・名鉄バス 鳴海駅より 滝ノ水口 下車
・地下鉄 野並駅より 市バス(大清水行・太子行) 滝ノ水公園下車
E-mail midori@honsoukaku.co.jp

HP <http://www.honsoukaku.co.jp/>

営業時間 10:00~19:00

定休日 木・日曜 (祝日は営業) 木・日曜が祝日の場合お休み

* かわら版はメールでの配信も行っております。